てんぞー新聞

'15.12.No222
発行責任 市岡田收
0883-88-5292

今年も早くも十二月になりました。なんでこんなに生き急ぐのでしょうか。バンビリと暮らせないものでしょうかネ～。

紅葉もあったのかなあ…という位で、今年の紅葉はきれいだなーと感じることの少なかった様な気がします。

じゃ、もう冬か…というと、その様でもあるし、そうでもないし。

十一月末に初氷、そして雪も降り、高い山々は白くなりました。

ますます……なる

雪虫もそれまでに何回も見て、嬉しくなったりしたのに、肩向には暖かい気候が続いて、まあ冬はあまり好きでない自分にとっては、いい天気ではありますが。

そう言えば、気象の長期予報では「暖冬」だと言っていたようです。

草刈りをしていて、そんな気がしていました。

というのは、季節の言い伝えで「カマキリの卵が下の方にあれば雪の量が少ないよ」の話があり、今年のカマキリは地面に近い所に卵があるのを何回か見てましたので、あるいはと思ってましたので……。

カマキリの予報ひは、雪が少ない…と言う事です。

時の移りが早くても、山の中、自然の中で生活していれば、生物の変化で季節が感じられていいものです。春にむかっては福寿草からはじまって、ユキワリイチゲを見ると「春だ～」。モンキチョウが飛びはじめる。虫たちが動きだすと、クモが巣を作りだす。ミツバチやウグイスが鳴きはじめる。山々の色が変わり出し、一面ごとに色が深くなり、色深くなると、アサギマダラが飛来してくれる。アカショウビンも時々鳴く。小鳥がエサ運びで忙しくなるなど、生きてる物すべてが、元気に活動している。自分も元気になる。

振りかえってみると、一年間、山の中を歩きまわった気分だ。というのも、国有林の中を仕事で巡回くらいですから、勝手気ままとはいきません人が…。

杉や松の育林の為の調査、点検などですが、その中でも、一万の姿や鳴き声が少なくなった様です。それでも、一メートル以下の植物は、極端にすくなく、コケやシダ類、そして毒草だけが見つかゆです。数年前は、杉、檜、ツツジ、ウラジロモミなどの皮がいたる所ではがされてるのが見られました。

それが、今では枯れはじめ、剣山やミ頭をはじめ、山中ではウラジロモミ等が枯れはじめているのが現況です。

また、何年振りかで、茅葺き屋根用の茅刈りをしていますが、そこのススキが、小さくなって、細くなってるのが多くなってる印象です。

日々、変わっていない様に思っていても、自然界は、変化している様です。

そういえば、日常では自覚していないのですが、私も七十才に近くなり、元気でとおもっていても、疲れが残る様になり、いつの間にか、自分より年下の人が多くなってるのに気ずかされびっくしています。

あの娘がお母さんになってるのを見かけると嬉しくなるとともに、あっという間に時間が早送りになってしまう。

こんな事のくり返しで、また一年が終ち、土になると、世の中、忙しくなる話ばかりになって、雪の降るのを待っている様な待つて、ない様な今日、この頃。

そういえば、冬眠の昆虫もまだ…。

今年も
ありがとう
ございました